

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670800655
法人名	社会福祉法人 光風会
事業所名	グループホーム はまゆう
訪問調査日	平成 20 年 10 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	670800655
法人名	社会福祉法人 光風会
事業所名	グループホーム はまゆう
所在地 (電話番号)	山形県酒田市宮野浦3丁目20-1 (電話) 0234-31-4466

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋造り	
	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 12,000 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,250 円	

(4) 利用者の概要(8月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	地域医療センター 高見台歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆったり たのしく笑いのある時を 地域に感謝し、貢献できるホームを目指します。」という理念を掲げ、職員と利用者が将棋をさしたり、台所に一緒に立って調理をしながら、人生の先輩でもある利用者から学びともに支え合う、のんびりとした暮らしの実現に努めています。
また、地区の運動会や文化祭、お元気講座等にホームから出向いたり、神社の清掃活動を利用者と職員が一緒に行ったりしながら、地域からの理解をさらに深め、地域との絆をより強いものにしていきたいとも考えているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との接点について、検討を重ねながら職員全員で話し合い、「ゆったり たのしく笑いのある時を 地域に感謝し、貢献できるホームを目指します。」という事業所独自の理念を作り上げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で評価の意義について説明されており、全職員で自己評価を行いながら、職員間の認識のズレをなくすようにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	1回目(20年6月)の運営推進会議では事業所の報告や意見交換が行われたが、2回目(20年7月)は「夏祭り」、3回目(20年10月)は「いも煮会」に出席してもらい、家族や民生委員に個々に意見を聞く形をとった。 運営推進会議では「ホームの運営や活動状況について報告すること」や「評価の取り組みや評価後の改善の取り組みについてモニターしてもらい、意見やアイデアを出し合い話し合うこと」等が求められるため、行事を兼ねた開催ではなく、運営推進会議が担うべき役割を十分に果たすことができる開催と運営を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見を言い出しやすいように、家族面会時には馴染みの関係づくりを意識しながら話しかけたり、また、面と向かっては話にくい様子がみられる場合には、電話で話をしてみる配慮もなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の運動会や文化祭、お元気講座等にはホームからも出向いて積極的に交流を図っており、また、神社の清掃活動も行うようにしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との接点について、検討を重ねながら職員全員で話し合い、「ゆったり たのしく笑いのある時を 地域に感謝し、貢献できるホームを目指します。」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の介護の中で目で確認できるよう玄関には理念が掲示されており、また、理念を意識した話し合いの機会を設けるなど、職員間で理念が共有できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の運動会や文化祭、お元気講座等にはホームからも出向いて積極的に交流を図っており、また、神社の清掃活動も行うようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で評価の意義について説明されており、全職員で自己評価を行いながら、職員間の認識のズレをなくすようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回目(20年6月)の運営推進会議では事業所の報告や意見交換が行われたが、2回目(20年7月)は「夏祭り」、3回目(20年10月)は「いも煮会」に出席してもらい、家族や民生委員に個々に意見を聞く形をとった。	○	運営推進会議では「ホームの運営や活動状況について報告すること」や「評価の取り組みや評価後の改善の取り組みについてモニターしてもらい、意見やアイデアを出し合い話し合うこと」等が求められるため、行事を兼ねた開催ではなく、運営推進会議が担うべき役割を十分に果たすことができる開催と運営を期待したい。

山形県 グループホームはまゆう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に相談や連絡を行ってアドバイスを受けており、また、行き来する機会もつくって連携を深めるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員からの手紙、利用者の自筆の手紙、写真等を添え、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭状況を家族に毎月報告されている。また、職員の異動や利用者の状態変化についても報告、連絡がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を言い出しやすいように、家族面会時には馴染みの関係づくりを意識しながら話しかけたり、また、面と向かっては話しにくい様子が見られる場合には、電話で話をしてみる配慮もなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動があった時には、利用者が不安にならないよう職員全員でフォローしている。また、新任職員には職員がマン・ツー・マンでつき、利用者とは早く顔馴染みになれるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画があり、年4回の法人内研修実施と職員一人あたり年1回以上の外部研修参加がなされている。また、ミーティングでの報告、資料の回覧も行われており、研修内容の伝達と共有が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡協議会と市内のサービス事業者連絡協議会に参加しており、研修、実習、情報交換等を通じたサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの慣わし、料理、畑仕事など、利用者から多くのことを職員が学んだり一緒に作ったりしながら、共に支えあう関係を築いている。また、自分で利用者にもできる場面をつくり、できたことは共に喜び合うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でゆっくりと利用者の話を聴き、一人ひとりが望んでいること把握するようにしている。また、困難な場合でも、日々の様子や表情、何気ない言葉を大切にしながら、利用者の思い出の地にドライブに出かける支援もなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況について毎月話し合いを行うようにしており、家族の意向も聞きながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はあらかじめ定めた期間に応じて見直しが行われており、また、状況変化がみられる場合には随時の見直しも行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	ホームからかかりつけ医に情報提供が文書で行われて おり、適切な医療が受けられるようになっている。また、 希望があれば訪問診療所の往診を受けることもできる ようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合についての話し合いを利用開始前 に行っており、家族の考えをあらかじめ確認している。ま た、状態変化があった時には、家族や医師と話し合っ た内容を職員全員で共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	日々の関わりの中で誇りやプライバシーを損ねないよ う、利用者への声がけや対応に注意しており、また、記 録を書く際には、個人の名前が見えないように配慮さ れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や一人ひとりのペースが尊重されてお り、買い物ついでに利用者が以前住んでいた家を、職 員と利用者が一緒に見てきたり、就寝時間を変更したり するなどの個別支援に取り組んでいる。		

山形県 グループホームはまゆう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に希望を聞きながら献立を立てており、買い物、調理、後片付けなど、個人の力を見極め、活かした支援が行われている。また、手作りケーキでの誕生会、外食での忘年会など、食事がより楽しくなる工夫もなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めてはいるが、その日の気分や体調に応じて希望に添った入浴を行うようにしている。また、温泉を利用することにより、入浴がさらに楽しみなものとなるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力や力にあわせ役割や趣味に活かせるように、さりげない支援がなされている。また、気晴らしのための支援として、散歩やドライブにも出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよいときは畑仕事をする、同じ法人の施設に移った元利用者に会いに出かける、買い物に出かけてみるなど、戸外に出かける時間を設けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、外に出かけたい方への声掛けや見守りによって、日中は鍵をかけずに安全に過ごせるようにしている。また、玄関にセンサーが設置されているため、外出した場合にはすぐにわかるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は毎月、避難誘導訓練は水害と夜間を想定して年2回行われており、また、地域への協力依頼についても自治会長と検討中である。		

山形県 グループホームはまゆう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況の記録、水分摂取を勧める声掛け、身体状態を考慮した食事形態の工夫、食欲不振時の好物の提供、法人栄養士への栄養相談など、栄養摂取や水分確保の支援に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ちょっと腰をおろせる椅子やゆっくりと寛げるコーナーが設けられており、思い思いの場所で過ごせるようになっている。また、畑の様子も自然に目に触れるため、作物の成長の話も弾む、居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌、箆笥、ベッドなど、利用者に馴染みの物が持ち込まれた過ごしやすい居室になっている。また、家族とも相談しながら、居室内に持ち込む荷物の種類や量を時々見直すようにもしている。		